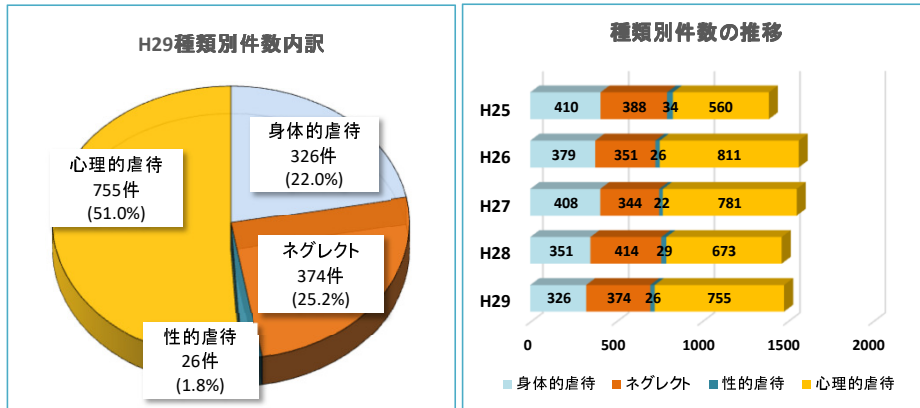


平成29年度 児童虐待相談の状況について（県子ども家庭相談センター受付）

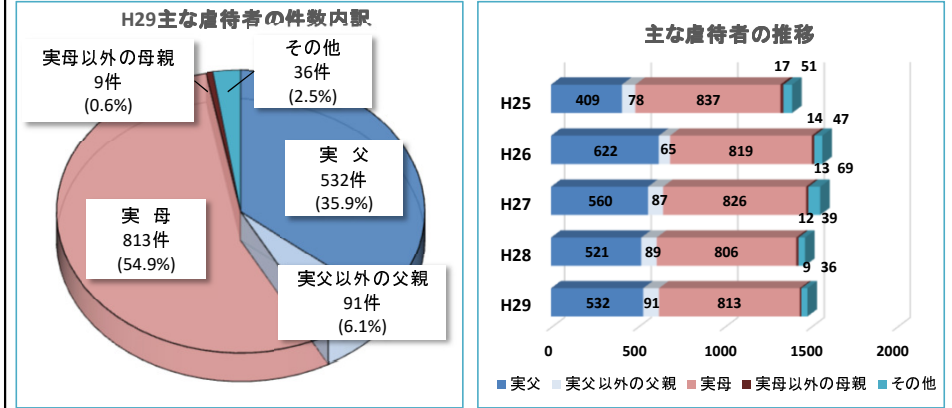
資料3-2

虐待の種類



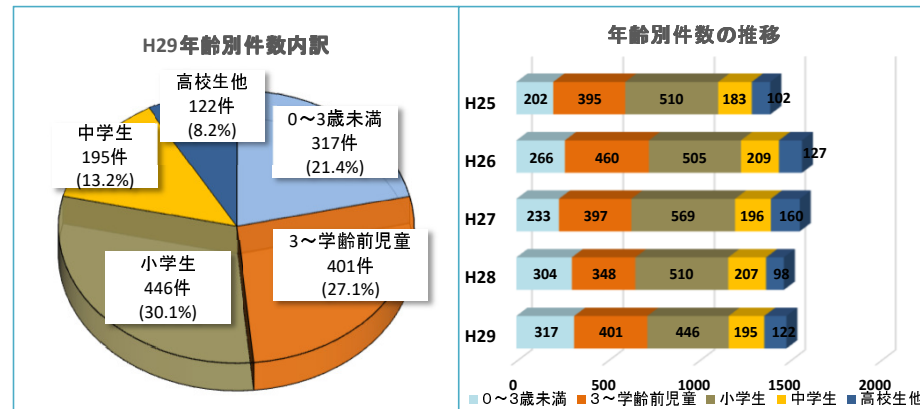
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比較すると「心理的虐待」のみが増加傾向を示しており、82件増（12.2%増）となり、種類別件数の半数以上（51%）を占める状況となっている。

主な虐待者



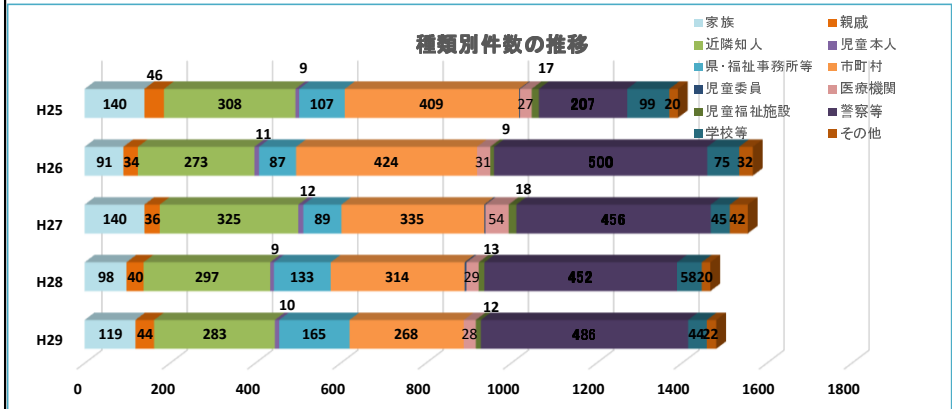
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。前年度と比べて割合に大きな変化はなく、「実親」のうち「実母」が占める割合が最も多い。

被虐待児の年齢



「0歳～就学前」の被虐待児の割合が全体の約半数を占める状況となっている。特に「3～学齢前児童」の児童数が、53件増（15.2%増）となっている。また前年度と比べ、「小学生」「中学生」の件数が減少している一方で、「高校生他」の児童数が24件増（24.5%増）となり、増加率が大きい。

虐待通告の経路



関係機関からの通告では「警察等」及び「近隣知人」が多い。「市町村」からの通告は46件減（14.6%減）となっているが、「家族」からの通告件数等に増加がみられる。